

「ワクチン接種」の 取り組みについて

稲垣 茂行



問 ワクチンの接種率向上には、正しい情報の提供が必要だと考えるが、どのように伝えるのか

答 接種により得られるメリットとデメリットを説明した案内を接種予定者へ配布するとともに、市のHPやコールセンターで丁寧に案内する。

問 予約システムと接種体制は

答 パソコンやスマートフォンで予約システムにアクセスし、希望会場及び日時を選択する仕組みを予定。なお、パソコンの使用が困難な方にはコールセンターで電話受付を行う。平日はおあしすを会場に、木曜日は6時間、それ以外は1時間30分。日曜・祝日は中央公民館を加え、6時間の実施。なお、個別接種は2医療機関で実施。

問 高齢者・障がい者施設等入居者への接種は

答 原則、施設内接種を予定している。

問 「キャンセル待ち」の導入は

答 限られた時間で予定を組み行うため困難。

問 「副反応」に対する対応は

答 接種後15分以上の健康観察を行い、アナフィラキシー症状等が出た場合は医師が対応する。

問 医師会との協議は整ったのか

答 「全面的に協力する」との言葉を頂いた。

地震対策の状況は

赤出川 義夫



問 市内で倒壊の危険性があるブロック塀は

答 平成30年に発生した大阪北部地震によるブロック塀倒壊事故を受け自治会と庁内関係各課に実態調査を依頼し97件の報告あり、報告のあった全ての塀を担当課が現地確認し危険性のある86件確認、所有者に倒壊時の危険性を説明、改善を求め6件対応、残り80件。今後も1年に1回追跡調査と啓発活動を継続実施する。

問 地震による家具転倒防止対策として市の補助を家具転倒防止器具等取付実施事業の状況は

答 平成27年19件、平成28年15件、平成29年8件、平成30年11件、令和元年19件、令和2年1件実施。

問 避難所の新型コロナ対策と備品等の整備状況について

答 避難所開設・運営における新型コロナウイルス対策マニュアルを策定、避難の際生活必需品に加えマスクや消毒液など持参いただくよう広報誌等で周知した。備品はパーテーション・簡易ベッド・消毒液・受付時に使用するガウン、フェイスシールドなどを整備した。

市街化区域の未整備の水路 について

中嶋 通治



問 未整備の水路は何本か。今後どの様に整備されるのか。

答 4本約250m。下流の整備状況を勘案し他事業とのバランスを考えながら早期整備に努める。

◆信号柱の設置について

問 10数年前から区画整理事務所と協議していたが進捗状況は。

答 他と旧大型スーパー北側の信号については今後も吉川警察署に要望していく。

◆災害ハザードエリア開発規制の見直しについて

問 調整区域には建物は建築出来なくなるが。

答 近隣と連携し県に話す。

◆農振地域除外申請について

問 許可迄の期間が長い。許可日数は適正か。

答 許可迄18か月程度かかっている。生活設計が崩れる。春日部農林に伝える。

◆3中学校の制服を選択制に

問 学校は人権について強く発信しないといけない

答 段階的に導入を検討する。

地域のまちづくりについて

松崎 誠



問 昨年11月末に東埼玉テクノポリス協同組合との意見交換が行われ、市側からテクノポリス拡張について課題等の説明をされたと聞いております。①市側からの説明内容②質疑応答の内容について伺います。

答 テクノポリス拡張予定地は農業振興地域の青地であることから三輪野江地区の白地の整備を計画的に進めなければ農林調整を進めることが非常に困難であり、協同組合の皆様是三輪野江地区の産業まちづくり地域の整備を優先することを報告しました。

問 旭地区・三輪野江地区は今後人口減少が進み、教育委員会の試算で東中学校の現生徒数は434人だが令和13年には141人、そして、旭小では108人、三輪野江小では139人との報告があります。市街化調整区域における既存集落の土地利用の規制緩和を図っては。

答 市街化調整区域は様々な土地利用制限があり開発規制が地域の人口減少、既存集落の形成、地域コミュニティの存続に大きな影響を与えて様々な法改正が必要であり県や近隣市町と意見交換し研究します。